

株式会社ワールド 国内小売事業 月次売上概況

会社名 株式会社ワールド  
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 鈴木 信輝  
 (コード番号: 3612 東証プライム市場)  
 問合せ先 副社長執行役員 中林 恵一  
 (電話番号: IR・グループコミュニケーション室 03-6887-1300)

2024年2月期 (2023/4/1~2024/2/29)		上期							下期					通期	
		4月 Apr.	5月 May	6月 Jun.	7月 Jul.	8月 Aug.	9月 Sep.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.	2月 Feb.	2H	Full Term	
売上前年比		伸び率 (%)													
国内小売売上	※1	105.4	105.7	105.0	111.5	※5 111.1	99.9	106.4							106.4
店舗売上	※2	106.0	105.5	105.0	113.6	※5 113.0	100.5	107.2							107.2
既存店売上	※3	109.7	109.2	108.4	118.2	118.2	102.7	110.9							110.9
Eコマース売上	※4	102.8	106.3	105.2	103.6	※5 104.3	97.6	103.3							103.3
店舗数		店													
月末(期末)小売店舗数	※2	2,225	2,223	2,223	2,205	※5 2,202	2,208	—							—
出店		11	0	1	2	※5 4	11	29							29
退店		10	2	1	20	13	5	51							51
M&A		0	0	0	0	※5 6	0	6							6
既存店対象店舗数	※3	2,086	2,094	2,091	2,067	※5 2,049	2,048	—							—

(注) 当資料は、原則として、翌月の第3営業日を目処に開示しており、速報値を含んでおります。このため、確定値が速報値と異なる場合、翌月の速報発表時に修正してお知らせいたします。また、通期の列においては、当月初から当月までの累計値を記載しております。

※1 売上数値は国内小売売上のみに限定されており、国内の卸売上や催事売上、海外売上などを含んでおりません。

※2 店舗売上及び店舗数には、直営店とVSPA(パーチャルSPA)を含んでおり、FC(フランチャイズ)や海外店を含んでおりません。

※3 既存店の定義は新規出店もしくは新規連結(グループ加入)から丸12ヶ月以上経過した店舗であり、前年同月と売場が同区画(同面積)で変動がないものとしており、対象店舗数も毎月変動いたします。このため、改装等に伴って移設される場合や1日以上休業する場合、既存店から除外しております(ただし、緊急事態宣言に伴う臨時休業店や営業時短店は既存店の対象としております)。なお、既存店にはEコマースの売上を含んでおりません。

※4 Eコマースの売上には、当社グループのブランド各社が自社サイト及び他社サイトで計上した売上を集計しております。

※5 2023年8月の国内小売売上前年比が111.2%から111.1%へ、店舗売上前年比が113.1%から113.0%へ、Eコマース売上前年比が104.5%から104.3%へそれぞれ修正されました。また、月末(期末)小売店舗数が2,201から2,202へ1店増えましたが、これは出店(9→4)とM&A(0→6)が訂正されたことによるものです(併せて、既存店対象店舗数(2,051→2,049)も修正されました)。下線部をご確認ください。

(当月の概況)

休日数(前年差) 当月  前年同月

・当月は、国内小売売上が前年同月比99.9%となり、内訳は店舗売上が同100.5%、Eコマース売上が同97.6%となりました。既存店売上は前年同月比102.7%となり、休日数の前年差はございません。

・なお、既存店売上はコロナ禍前の2019年9月に対して74.8%と初めて8割を下回りましたが、当時は月末にかけて消費税増税前の駆け込み需要が盛り上がり、比較対象となる2019年9月のハードルが前後より幾分高めです。

・当月は、先月後半の猛暑による秋物展開への影響を受け続いた滑り出しとなり、夏物商品の消化を促進した反面、月末まで季節外れの厳しい残暑が続いたことから、秋物商品の本格的な立ち上がりが緩慢なものになりました。引き続き人流の店頭復帰とインバウンド効果を背景として、店舗販路がEC販路より優位の状態は継続したものの、両販路において秋物シフトの鈍さが響き、Eコマースの売上は久しぶりに前年割れを記録しました。

・アイテム別においては、アパレルでは袖丈が7分袖から長袖となり、秋柄や秋カラーへの売れ筋シフトも見られましたが、シャツブラウスやカットソーが高稼働で今夏のヒット傾向が続きました。雑貨でも暖を取るアイテムが動き始めました。

・ブランド別では、「オパークドットクリップ」を筆頭に多くのアパレルブランドが既存店昨対増収を持続しましたが、今月はジュエリー「ココシュニツク」やバッグ「ヒロコハヤシ」、服飾雑貨「イツツデモ」といった服飾系の雑貨ブランドによる健闘が光りました。

お知らせ: 2024年2月期第2四半期決算発表(Tdnet及びホームページでの開示)は、11月6日(月)の予定です。

(参考: 前期実績)

2023年3月期 (2022/4/1~2023/3/31)		上期							下期					通期		
		4月 Apr.	5月 May	6月 Jun.	7月 Jul.	8月 Aug.	9月 Sep.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.	2月 Feb.	3月 Mar.	2H	Full Term	
売上前年比		伸び率 (%)														
国内小売売上		127.7	149.8	112.2	116.9	130.2	136.0	127.5	131.8	117.6	128.7	141.7	152.4	105.2	126.8	127.1
店舗売上		124.1	156.2	108.3	111.9	128.0	133.6	125.1	126.8	112.5	124.3	134.4	149.6	105.2	122.6	123.7
既存店売上		119.5	150.7	109.3	109.4	120.0	118.0	119.8	111.9	100.8	107.7	120.5	134.3	112.4	112.6	115.6
Eコマース売上		144.7	127.7	130.1	140.1	138.8	145.3	137.4	158.0	141.2	149.5	168.7	161.4	105.3	144.9	141.5
店舗数		店														
月末(期末)小売店舗数		2,364	2,358	2,353	2,341	2,316	2,313	—	2,301	2,304	2,304	2,248	2,205	2,224	—	—
出店		14	1	0	2	3	10	30	4	5	1	0	0	22	32	62
退店		11	7	5	14	28	13	78	16	2	1	56	43	28	146	224
M&A		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	25
既存店対象店舗数		1,569	1,577	1,577	1,568	1,539	1,533	—	1,541	1,550	1,553	1,497	1,460	2,083	—	—